

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成26年2月17日 NO.87

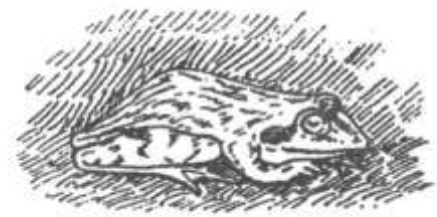
オー君 「花ちゃん！寒いね。」

花ちゃん 「そうですね。今年は雪がたくさん
ふって、うれしいけど、寒いわ。」



オー君 「この前の土曜日なんか、気温が1度
とかいっていたよ。」

花ちゃん 「冷蔵庫（れいぞうこ）の中でも5度
くらいだから、それよりも寒いのね。」



オー君 「この前、1年生が体育倉庫につららがあると教えてくれたよ。それだけ
寒いということだね。」

花ちゃん 「ところで、オー君。虫たちもまったく見えないけど、どこにいるのかな。」

オー君 「そんなの決まっているじゃん。土の中だよ。コガネムシの幼虫などは、温
かい土の中さ。それに、オサムシなどは、成虫のまま冬をこすんだ。」

モンタ博士 「ところで、寒い冬をこすのは昆虫の仲間（なかま）だけじゃないよ。いろい
ろな生き物や動物は。冬眠（とうみん）をするんだよ。」

オー君 「おいらも寒いから春まで冬眠したいけどな……。そりゃ、だめだな。」

モンタ博士 「そうさ。子どもは風の子、『元気な子』。外で遊ばなきゃいけないね。」

花ちゃん 「えーっと。冬眠するのは、クマみたいなほにゅう類や、カエルやヘビなどの
両生類やはちゅう類も冬眠すると思うわ。」

モンタ博士 「その通り。ほにゅう類や鳥類のように体に毛や脂肪（しぼう）をもって体温
調節（たいおんちょうせい）ができる生き物たちは、寒さは何とかなっても変温（へ
んおん）動物のカエルやヘビにとっては、寒さをのりきるのは大変なんだ。」

花ちゃん 「恐竜（きょうりゅう）が絶滅（ぜつめつ）したのも、地球が寒くなってきた
からでしょう。私、何かの本で読んだことあるわ。」

モンタ博士 「良く知ってるね。それじゃ、どうしてカエルやヘビなどは土の中に冬眠する



「んだらうね。分かるかな。」

オー君 「それは、土の中の方があったかいからじゃないかな。」

モンタ博士 「温かければいいのなら、ネコみたいにコタツの中の方がいいんじゃないか。」

花ちゃん 「コタツで冬眠するヘビやカエルなんて聞いたことないわ。たぶん、カエルやヘビは変温動物で体温の調節（ちょうせい）ができないから、なるべく寒くなったり温かくなったりしない所がいいのではないかしら。」

モンタ博士 「そうだ。温度変化の少ない所を選んで冬眠するということなのさ。だから土の中は最高にいい所というわけなのさ。」

オー君 「モンタ博士に質問だけど、もし暖冬（だんとう—ひかくてきに温かい冬）ととても寒い冬では、土の中にもぐっているとってもちがいがああるのかな。」

モンタ博士 「さすがは、オー君だね。いい所に気がついたね。カエルなどが冬眠するのは当たり前だけど、それで終わっちゃだめなんだ。ある農家の方が、こう言ったそうだ。『今年はカエルやヘビの冬眠する場所が深（ふか）いからよお、こんな冬は寒さがきびしいぞおっ』とね。」

花ちゃん 「なるほど、自然と生き物とは、うまくできているんですね。」

モンタ博士 「実際（じっさい）に、調（しら）べた人がいるんだけど、暖冬の年には80cm、厳冬（げんとう—寒さのきびしい冬）の年には、120cmのところからトカゲがでてきたそうだよ。なんだかおもしろそうだから、二人で実験観察（じっけんかんさつ）してみたらいいよ。何年か続けてやってみれば、ものすごいすばらしい研究になると思うよ。」

オー君 「カマキリが卵を生む場所も雪のふる深さを感じとっているんでしょう。」

モンタ博士 「そのとおり。生き物たちにはすばらしい能力があるんだね。おどろきだね。」

動物達の予知能力

人類の英知が文明を発達させてきた。が、それでもまだまだ自然界には未知なるものが、不可思議なものがたくさん存在するのだ。いくら人間が科学を発達させたとしても、動物達の予知能力の素晴らしにはまだまだかなわない。動物達の予知能力、調和能力に対して、人類はもっと謙虚に学ぶべし。